

# (オズリー) ガラスカッター「OZREE」

## 90周年記念で先行限定販売

三星ダイヤモンド工業



OZREE (オズリー)



カッターの刃先

は、10月1日（火）に創業89年を迎えた。創業90周年を控え、新たにガラスカッターの新ブランド

「OZREE」（オズリー）を立ち上げた (<http://www.ozree.jp>)。B

t o C 向けの商品として、創業以来のガラスカッターにこだわりつ

つて、現代にフィットしたスタイルッシュなデザインの機能を持たせたガラ

スカッターを開発した。ステンドグラス作家やガラス加工の職人など、コンシューマー向けの商品として展開する。

また、このほど創業90周年記念商品として、マ

ットブラックとクロスブラックの2種類の限定カラーのカッターを先行限定販売するほか、10月22日（火）からドイツ・デュッセルドルフ市で開催される、世界最大のガラスの展示会「glass tec 2024」にも出展する。

そこで、代表取締役社長の若林真幸氏と飯田事業所生産技術課主任でオズリー開発プロジェクトチームリーダーの林真平氏に話を聞いた。

若林社長は「私が社長に就任した、2023年2月頃にスタートしました。もう一度ガラスカ

ターネームに）参加しました。最初は4人でスクワクしたことを覚えていました。興味本位で手をあげて（プロジェクトチームに）参加し

ました。また、専属のデザイナーさんにも入ってもら

って、まずは見た目、デザインにこだわろうと。機能は当然ですが、工具だけどオシャレ”、

“見た目をカッコ良く”

するところから始まりました」と、開発当初の状況を説明した。

そこから3Dプリンタ－を用いて試作を繰り返し、約1年をかけてデザインを固めた。グリップ部分はアルミを削り出し、ダイヤモンドカット加工を施することで、手になじむ持ち心地を実現。カッター部分は、視認性を重視して従来品の様なセンターより近い部分から持ち手の延長線上に配置するように変更した。こ

れは、ステンドグラス作家が下絵の上からガラスをカットする際に、従来

ターナーを見直して、新しい価値を付加して90周年の記念として世に出そうと思いました。そこでMDIの物づくりを受け継いできた飯田工場のメンバーに、プロジェクトチームの話を持ちかけました」と話す。

林氏は「20年近く勤めていますが、飯田工場でプロジェクトをやるよう

な話は、過去にありませんでした。話を聞いてワケが手をあげて（プロジェクトチームに）参加しました。最初は4人でスクワクしたことを覚えていました。興味本位で手をあげて（プロジェクトチームに）参加しました。また、専属のデザイナーさんにも入ってもらつて、まずは見た目、デザインにこだわろうと。機能は当然ですが、工具だけどオシャレ”、

“見た目をカッコ良く”するところから始まりました」と、開発当初の状況を説明した。

林氏は「ガラスカッタ

ーとしての大事な部分は

変えずに、デザインや機能性をプラスシチュアップ

して、今（現在）のガラスカッターが出来たと思

っています」と話す。

若林社長は「OZRE

Eは人を豊かにする人を

との意見を得て設計され

た。また、女性の作家はガラスを押し切りするケ

ースが多いため、鉛筆の

ように力が伝わりやすく

なるように、工夫を重ねた結果のことだった。

「OZREE」（オズ

リー）のブランド名について、「O」（曲線）も「Z」（直線）もフリーにカットできるという意味で、作家のインスピレーションを高め、ストレスを減らすことで創造意欲を掻き立て、無限”から”無限”的”の可能性を引き出したいとの願いを込めて名付けられた。

リーライフ”のブランド名につ

いては、「O」（曲線）も「Z」（直線）もフリーにカットできるという意味で、作家のインスピレーションを高め、ストレスを減らすこと

で創造意欲を掻き立て、無限”から”無限”的”の可

能性を引き出したいとの願いを込めて名付けられ

た。

林氏は「ガラスカッタ

ーとしての大事な部分は

変えずに、デザインや機能性をプラスシチュアップ

して、今（現在）のガラスカッターが出来たと思

っています」と話す。

若林社長は「OZRE

Eは人を豊かにする人を

作る商品だと思っています。アーティストさんが作品を作るための作品を作りたい。B to Bでは、半導体や太陽光パネルの部材など、物質的な豊かさを作

る企業を目指したい。

100年に向けて作って行きたい」と語り、次

10年に向けて考えを示す。アーティストは、人を豊かにするための作品を作りたい。B to Bでは、半導体や太陽光パネルの部材など、物質的な豊かさを作りたい。物質的な豊かさを作りたい。この中に貢献したい。この2つが両立した状態を、100年に向けて作って行きたい」と語り、次